平成 26 年 7 月 24 日

各　　位

会 社 名　株式会社シーティーエス
代表者名　代表取締役社長　横島泰蔵
（コード番号：４３４５）
問合せ先　執行役員　管理部長　佐藤真一
（TEL. 0268－26－3700）

多摩川精機株式会社との「Geo-CIS」向け 慣性センサー及びシステム共同開発のお知らせ

当社は、多摩川精機株式会社（萩本博幸代表取締役会長、本社：長野県飯田市）と共同で GNSS による位置情報取得を補完する慣性センサーを開発いたしました。先月、当社より発表いたしました「Geo-CIS」（敷均・締固管理システム）の利便性を向上するとともに、今後の情報化施工の可能性を拡張する商品となっております。詳細につきましては別紙をご参照ください。

以上

多摩川精機株式会社との「Geo-CIS」向け
慣性センサー及びシステム共同開発のお知らせ

株式会社シーティーエスは、多摩川精機株式会社（萩本博幸代表取締役会長、本社：長野県飯田市）と共同で GNSS（汎地球測位航法衛星システム）を用いた情報化施工技術（敷均・締固）の欠点である、障害物によって人工衛星との情報が遮断される問題を軽減するための慣性センサーを共同開発いたしました。当社開発の「Geo-CIS」（敷均・締固管理システム）と連携させることで、敷均・締固をより効率的に行うことができるシステム※となっております。

1. 商品概要

「Geo-CIS」では、重機の運転手は手元に設置したパソコンのモニターでリアルタイムに自車の状況を把握することができます。これは、GNSS を利用し、人工衛星からの情報を得て自己位置を算出することで可能となっております。しかし、上空を障害物で遮られている場合は人工衛星からの情報が入らないため、自己位置を算出できません。そこで新たに開発した慣性センサーでは、カーナビゲーションシステムのジャイロと同様の原理を用いることで、通信不可区間においても自己位置を把握することが可能となっております。これにより、衛星との通信が遮断されていても施工を進めることができます。

2. 想定される活用状況

① 遮蔽物により衛星との通信が困難な場合

工事現場によっては、橋や立木に重機の走行中に衛星との通信が遮断されてしまう場合があります。衛星からの情報が得られない区域については一度重機を止めて、現場の写真撮影等の対応が必要になります。新たに開発した慣性センサーを用いることで、重機を止めることなく効率的な施工が可能となります。

② 衛星との安定した通信が困難な場合

その時々の通信可能な衛星数によって、通信が断続的になってしまう場合があります。通信が不安定な状況下では、安定した重機の現状把握が難しくなります。そのような場合でも、慣性センサーにより通信の途切れた部分の位置情報を補完することで通信の不安定をカバーし、スムーズな施工が可能となります。



写真のように、衛星との通信を遮られる橋の下などでも重機を止める必要がなくなります。

3. 今後の展開

近年、情報化施工が普及するにつれ建設現場での IT 化が加速しています。
当社においても今回の慣性センサー開発に続き、情報化施工に関するサービスにさらなる磨きをかけることで、建設 ICT の専門企業として建設現場になくてはならない企業を目指してまいります。

4. 発売時期：2014 年 秋頃予定

5. 販売価格：未定

6. 販売地域：全国

7. その他：「Geo-CIS」のオプションとしてリリース
「Geo-CIS」についてはこちら：http://www.cts-h.co.jp/whatsnew/sok_14001.html

8. 問い合わせ窓口：株式会社シーティーエス
測量計測事業統括部 情報化施工チーム担当 小林、関口
TEL：0268-71-8050

※ 特許取得「締固め及び敷均し管理システム」（特許第 5555367 号）